



### カンボジアだより

#### その1 今後の活動について

ニュースレター20号で申し上げたように、日本事務局から、現地の業務委託団体であるポンロック・タマイにいくつか新しい活動の提案をおこないました。これらは、これまでの活動の中でアジア未来学校とその周辺の村の人たちから聞いていた要望を取り上げたものでした。

この提案にもとづいて、ポンロック・タマイのディレクターであるリティ氏が、現地の人たちと検討した結果を受けて、下記二項を実施することにしました。

- ① ルセイサン小学校のスポーツ施設整備への協力
- ② ルセイサン小学校に幼稚園開設協力

①のスポーツ施設は、バレーボールコート、砂場、雲梯(うんてい)を作るもので、当基金はこれを作るための材料(鉄パイプ、材木、セメントなど)の購入費240ドル(2万9千円)を負担し、工事はルセイサン小学校の先生と児童が行います。今のところ完成は5月末の予定です。

②の幼稚園開設の目的は以下のとおりです。

- a : 小学校の予備教育の場をつくる
  - b : 小学校の敷地内につくることで、子どもが学校に慣れる
  - c : 子どもが家庭にいない時間が増え、親がその分仕事ができる
- aとbは、小学校入学後の落ちこぼれ防止の効果があります。

必要資金については、建設費の大半を当基金が負担し、先生の給与はプノンペン市の予算から支出するということが進んでいます。ただ、給与をプノンペン市が支出することについては、もう一度確かめる必要があります。

本件に関しては、村人、特に入園対象児童の両親、学校の校長及び先生方、村のお寺のお坊さまなど、関係ある人すべての意見をよく聞いて話を進めるようにリティ氏に依頼しています。特に、幼稚園経営を継続していくために、当基金がいつまで、どの程度の支援をすればよいのか、よく相談して欲しいと伝えてあります。

余談ですが、村のお寺のお坊さまは幼稚園開設に非常に熱心です。カンボジアではお坊さまは人々に大きな影響力があり、今後、この方に当基金の活動について相談に乗っていただくことも考えたいと思います。

～目次～	
カンボジアだより	1
今後の活動について	
アジア未来学校修了生のその後	
スタッフ紹介	3
フリーマーケット報告	
事務連絡	4

## その2 アジア未来学校修了生のその後

アジア未来学校は、カンボジア教育・青年・スポーツ省制定の識字教育課程を採用しており、これを修了した子どもが隣村の公立ルセイサン小学校に編入することになっています。

それでは今までに何人の子どもが編入し、どの学年に在籍しているのでしょうか。これについては今まで調べたことがありませんでした。今回、ルセイサン小学校の先生にご協力いただき調査しましたので、概要をご報告します。

調査の方法は、生徒の名簿を作ると同時に個人写真を撮るというものです。これは以前アジア未来学校で実施した方法で、正確に人数を把握するにはよい方法だと思っています。

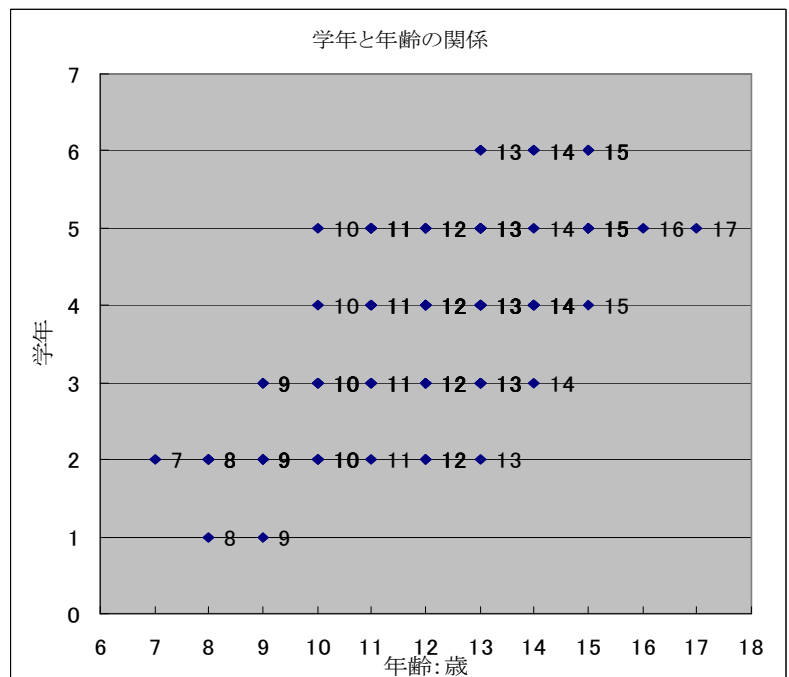
3月末現在、アジア未来学校出身でルセイサン小学校に在学中の子どもは100名です。これに加え、ルセイサン小学校を卒業して公立中学校に進学した子どもが25～30名います。中学進学者の数がおおよそなのは、小学校に記録が残っておらず、先生の記憶によるという、いかにもカンボジアらしい状況のためです。

7歳から17歳までの子どもがいて、全学年に在籍しています。下のグラフはその分布状況です。

これを見ると、全体的には年齢の高い子どもが高学年に、低い子どもが低学年に在籍していますが、個別に見ると5年生に17歳の子どもがいたり、13歳の子どもが2年生だったり、あらためて私たちの支援しているアンロンコン・タマイ村の子どもたちの置かれている状況を認識してください。

嬉しい話もあります。2003年8月のニュースレター8号で「選挙で投票できるなら日本政府に投票する」と言ってくれたダラ君が元気に5年生に在学し、クラスでも上位の成績を上げていることです。彼は2003年6月に犬に噛まれ、狂犬病と破傷風の恐れがありながら、ワクチンを注射する数ドルのお金がなく、これを知った当時の安田カンボジア事務所長が、当基金の負担でワクチンを打つようにして大事に至らなかったのです。今、彼はルセイサン小学校の午後のクラスで勉強し、午前中は炊事に使う枯れ枝集めをして家事を手伝っています。リティ氏のインタビューに答えて、「勉強は楽しく、できれば中学に進学したい」と話しているそうです。(大澤)

（子どもたちの写真を別刷りでお届けします。右上がダラ君です。）





# ルセイサン小学校に編入した子どもたち(1)



Heng Vuthy  
13歳 4年生



Heng Vuthy  
13歳 4年生



Rin Narith  
14歳 6年生



Kung Sophy/Kong  
13歳 6年生



Im Vibol  
12歳 5年生



Deap Phearak  
13歳 4年生



Pich Dara  
12歳 5年生



Heab Sreynoch  
11歳 3年生



Rum/Rorm Theary  
10歳 3年生



Phock Makara  
7歳 2年生



Seng Nay  
10歳 3年生



Sao Borin  
13歳 4年生



Mon Veasna  
14歳 4年生



Seak Bory  
13歳 5年生



Nguon Sreylak  
11歳 4年生



Keo Chanthon  
14歳 4年生



Suong Sela  
8歳 2年生



Tri/Try Ravy  
10歳 4年生



Thoeun Sreylin  
13歳 4年生



Mao Sreyhoch  
14歳 4年生



Thol Narin  
12歳 4年生



Rum/Rorm Theary  
10歳 3年生



Kung Ratha/Kong  
13歳 6年生



Pat Theary  
12歳 4年生



Phal Ratana  
12歳 4年生



Rith Lakhena  
12歳 3年生



Yee Duong Chan  
13歳 4年生



Tri/Try Ravy  
10歳 4年生



Phal Kimsros  
15歳 5年生



Phal Lakhena  
13歳 5年生



Pheap Sreynak  
13歳 5年生



Thoeun Sreylin  
13歳 4年生



Bin Pisey  
14歳 4年生



So Sophos/Somphos  
15歳 5年生



Chea Sreyon  
11歳 5年生



Im Udom  
17歳 5年生



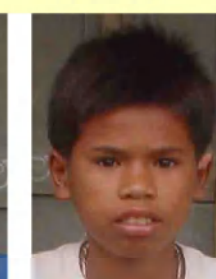
Ang Chenda  
14歳 5年生



Pheang Dina  
16歳 5年生



Saron Vandy  
9歳 2年生



Sim Layhun  
15歳 6年生



Chham Ratha  
12歳 4年生



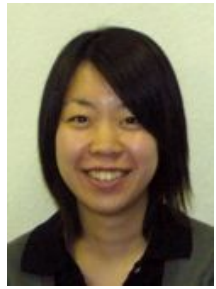
Pheang Chao/Chav  
11歳 5年生



## スタッフ紹介

東邦大学 4年 立山涼子

はじめまして。私と日韓アジア基金との出会いは、今年のグローバルフェスタでした。そこでお話をうかがってから、定例ミーティングに参加させていただくようになり、今に至ります。



そもそも、日韓アジア基金という団体を知ったきっかけは、当会のスタッフ波多野淑子先生からの紹介でした。波多野先生は中学・高校時代の私の恩師で、地理や歴史を教わりました。特に、日本史の授業の一環であった韓国の高校生たちとのレポート交換は、私に強い衝撃を残しました。この授業は、日本と韓国で同じ課題のレポートを作成し、交換した後、お互いの意見を出すというものでした。一番印象強いのは「なぜ日本は植民地にならなかったのか？」という課題です。このレポートに対する、韓国の高校生たちからの意見は今でも忘れません。彼らは、日本が嫌いと言ってきたのです。このストレート過ぎる言葉と感情に、私は驚き、戸惑いました。まさか自分と同年代の子たちが、過去の歴史にとらわれ、日本を憎んでいるなんて思ってもいなかったからです。私にとっては歴史上の出来事でも、彼らにとっては、遠い昔の出来事ではなかったのです。これに衝撃を受けた私は、自分の世界の狭さを痛感しました。そして自分の世界を広げるために、日韓アジア基金に参加しました。私は、ボランティアに参加したことはなかったのですが、この団体を通じてカンボジアを知ることができ、私の世界はまた一つ広がりました。

現在は、物理学専攻のため研究室に所属しております。4年生ということもあり、卒業研究と同時に就職活動もしているので、慌ただしい毎日を送っていますが、カンボジアの子どもたちのために、また日韓のために少しでも力になればと思っています。

フリーマーケットに出店！

ジュニアスタッフ有志

4月29日(祝)、私たちは明治公園のフリーマーケットに出店しました！久しぶりの快晴とフリマが幸運にも重なり、多くのお客さんがフリマに来場されました。フリマには、老若男女、国籍もさまざまな方がいらっしゃいます。フラッと立ち寄る方もいれば、欲しいものをメモにリストアップして、入念に商品を探す方もいます。今回はこんなエピソードがありました。インド系の男性が店にやって来て、200円の帽子を「10円にまけて」と言いました。私は、さすがに20分の1は悔しいと感じてしまったので、50円を主張しました。結局、その男性は帽子を買わずに店を後にしました。一方、同じくインド系の女性が店にやって来て、200円のバッグを「50円にして」と言いました。「私はお金がないの。だから安くして」とも言いました。ここで50円にしていいのか。私は一瞬迷いましたが、お金がないから安くする、というのがどうしても嫌だったので100円で交渉しました。彼女は、100円を差し出し、バッグを買っていきまし

た。店にやって来る外国人（特にアジア系）は、日本人よりもかなりの値下げを要求します。私はその値下げに応じてあげる方が良いか、日本人と同じぐらいの値下げで対応する方が良いか、とても戸惑います。しかし、一番大切なことは、フリマを売り手も買い手も楽しむこと。お客さんとの会話を楽しみ、日韓アジア基金の活動を一人でも多くの方に伝えることができたらと思っています。さて、結果は32,280円の収益でした！この売上金は全て基金に寄付し、カンボジアでの活動資金になります。最後になりましたが、商品を提供してくださった皆さまに厚く御礼申し上げます。（渡部）

**07年1月～3月に会費・ご寄付を下さった方（敬称略・別枠を除き五十音順）**

阿南 系代	岩見 豊子	神田 幸子	芝村 篤樹	中村 節子	堀川 清	油谷 友加
荒川 雄彦	大澤 龍	神戸 博子	高木 桂子	平島 清行	堀川 泰義	吉野 早苗
乾 寿夫	大坪 玲子	小林 栄次郎	田中 節子	平塚 千尋	松田 明美	吉村 悦子
井上 卓也	小川 英	坂本 玄子	田野辺 隆男	古川 かおる	松本 昌幸	
井上 知加子	金本 容子	佐藤 和之	長島 和子	星 光雄	山根 寛	
都立大学土木科OB一同		募金サイト・イーココロ 匿名寄付				

**07年1月～4月8日にフリーマーケットの商品をご提供下さった方（敬称略・五十音順）**

阿南 系代	加藤	田中 節子	波多野 淑子	谷池 教子	渡辺 京子
-------	----	-------	--------	-------	-------

**ご入会・ご寄付のお願い**

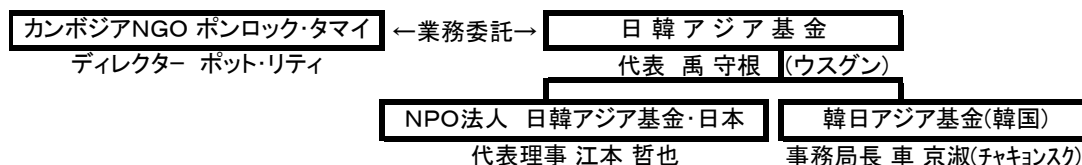
活動会員：年会費 5,000 円(学生、未成年者 2,000 円)  
 賛助会員：年会費 1口 5,000 円(学生、未成年者1口 2,000 円)  
 法人会員：年会費 1口10万円  
 ご寄付：2,000 円以上おいくらでも

**<郵便局振替口座>**  
**振込口座 00180-2-25153**  
**日韓アジア基金**

- ・活動会員：活動に積極的にご参加いただける方
- ・賛助会員：定期的にご支援いただける方

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けいたします。  
 国内経費は全額スタッフ有志の寄付によっており、外部の方からのご支援は全てカンボジアに送っております。

**日韓アジア基金の組織**



**<お問合せ先>**

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内  
 Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)  
 E-メール: iloveasia@ml-b7.infoseek.co.jp HP: http://www.iloveasiafund.com/japan/  
 発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金・日本 代表理事 江本 哲也